

私とおの100 ～衝撃的な出会い、気づきの数々～

私はこの“おの100”という企画に大学二年生(2006年)から三年間関わらせていただきました。この企画に参加したきっかけは同じ寮の友人からの誘いでした。友人の話を聞いて、面白そうだなと思いエントリーすることを決めました。しかし、当時の私は非常に自分勝手であったと振り返ってみても思います。あまり積極的に、また考えて行動することができていなかったと思います。例えば研修で意見発表の場において、あまり手を挙げて発表することは出来ていなかったです。そんな自分の行動が影響して、一年目の第四回のおの100には学生リーダーとして選ばれることはなかったです。

しかし、そのことが逆に自分を変えるきっかけになったと思います。“このままでは、自分は以前と全く変わらない。折角の機会をみすみす無駄にしてしまう”。そう思うととてももったいないと感じ、翌2007年もエントリーをし、積極的な行動を心掛けました。また、私生活でも謙虚な行動を心掛けて、相手の立場に立って行動することの重要性を考えるようにしました。そして、その年には学生リーダーに選ばれ、輸送やレクリエーションをする係りを任されました。別動隊の係でしたが、一つの事業を支えている人々の存在の重要性を実感できてとても勉強になりました。あまり子供たちと関わる機会は多くなかったですが、レクリエーションや夕食の時間帯で、疲れた子供を楽しませて勇気づけることができ、良かったです。

今年2008年の第六回おの100では本隊で子供たちと関わりたい思いや、自分自身去年より積極的に、もっと自分から行動したいという自らの不完全燃焼のような思いがあったので、再度エントリーしました。その結果、セーフティーネットという隊列から遅れた子供を隊に戻す係りで、本隊の一員に任命されました。本番中は、歩きたいけど、足が痛くて歩けない子供を何人が担当して、その精神力に思わず涙が出そうになりました。とても感動しました。2007年、2008年ともにゴールの後の解団式では本番5日間の子供の成長や、歩ききった雄姿、子供たち自身の本番の振り返りを聞いて、感動し涙が止まりませんでした。

自分にとって、おの100は事前研修、本番ともにとってもいい出会いや気づきがあったのではないかと思います。研修では他の大学やいろいろな人との交流によって自分の視野を広げることが出来、考えて行動するきっかけになったと思います。また本番では自主的な行動を実践する場として、意欲的に動くことが出来、さらに子供たちの100キロへの挑戦を生で見ることによって諦めないことの大切さを実感することができました。

これらの経験は実社会でとても役に立つことだと思うので、来年の2009年からもこれらの学んだことをしっかり生かしていきたいと思います。おの100に出会えて良かったです。すべての出会いにありがとうございました。